

萩ジオパーク基本計画・実行計画

維新とマグマの胎動の地・萩



令和4年6月

萩ジオパーク推進協議会

萩ジオパークの将来像（基本計画）

私たちは、「日本の人々の心に、日本の大地とともに生きる意識を育てる」というミッションの下、持続可能な地域づくりを行うために基本計画を定め、協議会はもちろん地域住民と広く目標を共有し、ジオパークの活動を行う。

（１）将来像（ヴィジョン）

地球の視点で「萩らしさ」が”見える” ”伝わる” まち

私たちは、これまで歴史の町として先人から引き継いだ萩らしい歴史や文化の保全に力を注いできました。

それは言い換えると、萩の大地の特徴を理解し、土地にあった暮らしを模索してきた人々の試行錯誤の記憶が失われることなく残っているということです。

私たちは、ジオパークの活動を通じて、萩で繰り広げられてきた大地と人の共生の姿を紐解き、人間社会を脈々と続く地球活動の一部として捉えなおすことで、萩らしさを根源から理解し、新たな価値観を創造します。そして、萩の大地により適した形で発展させて未来の世代に引き継ぎます。

（２）活動の目標

① 地球目線で萩を『知る』（調査・研究、普及啓発・探求の取組み）

萩らしさとは何かを認識しよう！

この地に暮らす誰もが自分が住んでいる土地の成り立ちと関係を語ることができるまちにする。

② 地球目線で萩を『守る』（保全活動の推進）

萩らしさを磨き、輝き続けるふるさとを残していこう！

ジオサイトを正しく守り続ける仕組みをつくっていく。
地域住民と共に日常的に保全に携わり、未来へ伝えていけるまちにする。

③ 地球目線で萩を『創る』（産業振興・地域おこし）

萩らしさは私たちが創る！

このまちの至るところでジオツアーが定番化し、そこに新たな雇用が生まれる環境をつくる。

④ 地球目線で萩を『伝える』（教育、観光振興）

萩らしさを表現しよう！

「見る」・「遊ぶ」・「食べる」これら全てで大地のつながりを感じられるまちを創造する。

⑤ 地球目線で『繋がる』まちへ（ネットワーク連携）

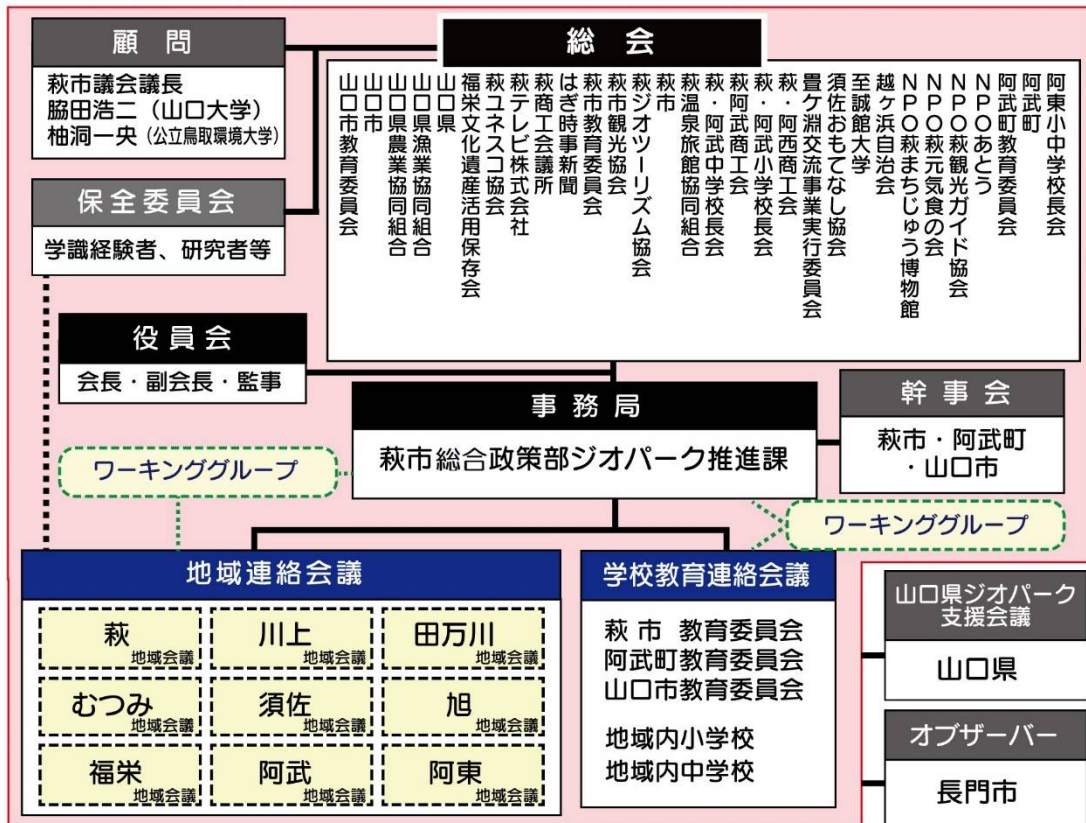
*「大地と人」「人と人」「地域と地域」がつながる場を創ろう！
「過去と現在、そして未来」がつながる活動をしよう！*

ジオパーク内で横の繋がりが生まれ、地域間の交流が活発化するまちをつくり、ジオパーク間のネットワークが広がる活動を展開する。

(3) 萩ジオパークの推進体制

萩ジオパークでは、広くその価値や楽しさを地域住民や来訪者に理解してもらうため、協議会を組織し様々な活動を展開していく。目指すべき推進体制を以下の図にまとめる。

【萩ジオパーク推進体制】



萩ジオパーク推進のための実行計画

(1) 実行計画

前章で定めた将来像を確実にかつ計画的に実施するため、下図の萩ジオパーク活動推進モデルにより取組みを行う。



1 初期設定

ジオパークの基本情報を設定する

① 守るべきジオサイト

- 1 ジオサイトを研究成果に基づいて設定し、それを進化・発展させる。
- 2 萩ジオパークにおける地球活動の記憶の理解に必要な自然サイト、文化サイトを設定する。
- 3 ジオサイトの保全のためのルールを設ける。また、そのルールを周知する。
- 4 有事の際に相談できる保全委員会を設ける。ジオサイトの選定、保全

について、学術的な検討を行う。

② ジオサイトカルテを作成する

- 1 地質年代・岩石の種類・特徴をリスト化する。

〔 調査・研究に基づき、萩ジオパークの顕著な地質学的特徴、顕著な地形学的特徴を持つものがエリア内にどれだけあるか、また、それらの地質年代や岩石種類をリスト化し、常に最新の情報を保持する。 〕

- 2 国際的に特徴的なジオサイト、国内で特徴的なジオサイトなどジオサイトの分類分けを行う。
- 3 教育的に意義のあるジオサイトをリスト化し学校教育等に活用する。
- 4 ジオサイトのデータベースをつくる。
- 5 自然（生態）遺産や文化遺産をリスト化する。
〔 世界的な価値、日本での価値、山口県内での価値、地域での価値 〕

2 テーマを設定する

全ての分野を貫く軸となるテーマを設定する

① キャッチコピーを設定する

- 1 全ての分野をつらぬくキャッチコピーを設定し共有する。

3 理念の普及

理念やビジョンに共感してもらい活動者になってもらう

① 萩ジオプランナーを養成する

- 1 地域住民のジオパークへの興味を深め、活動への参画を目指し、年間を通じて「萩ジオプランナー養成講座」を開催する。

② 学校教員向けジオパーク利用研修を行う

- 1 地域内の教員向けの研修プログラムを実施する。
- 2 山口県内の教職員を対象とした学習会の場を提供する。

③ ジオサイトに関する住民説明会を開催する

- 1 ジオサイトの基本情報を整理し、地域住民に正しく伝える。

④ 萩ジオパークパートナー制度を設立する

- 1 ジオパークの理念に賛同する事業者を募集して共に活動する。

4 探求と創造

活動者が分野を超えて交わり試行錯誤を繰り返す

① 調査・研究の促進と環境づくり

- 1 研究者の研究目的のための各種申請書作成支援を行う。
- 2 研究者の要望に合わせて現地案内できる環境を整える。
- 3 博士論文が発表される環境づくりを行う。
- 4 地域内の学術研究の成果をまとめたデータベースを作成する。また、その情報を公開し、資料収集がしやすい環境をつくる。
- 5 定期的にアンケート調査等を行い、来訪者情報を把握する。また、調査結果を分析し、今後の活動等に反映させる。

② ジオサイト保全ルールを設定する

- 1 各ジオサイトに応じた保全ルールを設定しこれを周知する。
- 2 遺産の破壊防止や持ち去りの禁止等のルールを設ける。また、これを周知する。
- 3 必要に応じて、保護や研究を目的に立ち入り規制をする地域を設定する。
- 4 研究のための地質標本採取について許可区域を設けるなどルール化する。

③ 萩ジオガイドを養成する

- 1 萩ジオパークを来訪者へ楽しく分かりやすく伝えるためのガイドを育成するため「萩ジオガイド養成講座」を開催する。
- 2 ジオガイドには、(1) ジオパークの理念、(2) 地質学や地形学の知識、(3) 大地と人と自然のつながりに関する知識、(4) リスクマネジメントの技術等を習得してもらう。
- 3 ガイド養成において、ガイド中に自然災害が発生した際のガイドのとるべき対応を習得するための研修をとり入れる。

④ モニターツアーを実施する

- 1 ジオサイトをジオツーリズムに活用する。
- 2 ジオツーリズムの中心となりうる特定の地域を創出する。
- 3 ジオパークのジオストーリーやテーマを表現するジオツアーを提供する。

- 4 ジオツアーにより地域経済が潤う仕組みを構築する。
- 5 ガイドが、過去にその地域内で起きた自然災害や、その発生要因をジオツアーの中で紹介できるようにする。
- 6 将来的には数日にわたるパッケージツアーを検討し、モニターツアーを実施する。

⑤ ガイド組織を立ち上げる

- 1 ジオガイド養成とモニターツアーでジオツアーを実践したガイドによるガイド組織を立ち上げる。

⑥ 食のジオパーク的な整理を行う

- 1 ジオパークを通じ地元の食材や商品などの販売促進につながる仕組みを検討する。
- 2 ジオツーリズムにおいて地元の食材を使った料理を提供する飲食店等の情報を提供する。
- 3 地元の農林水産物や郷土料理のためのジオパーク専用のブランド制度（統一したラベルや認証制度）を設ける。
- 4 ジオツーリズムにおいて地域の道の駅や農産物直売所等と連携する。
- 5 ジオパークの地形・地質を表現した商品開発を推進する。
- 6 イベント等で地元の食材や商品を販売できる機会を提供する。

⑦ 体験のジオパーク的な整理と開発を行う

- 1 ジオツーリズムにおいて地域で体験・体感できるコンテンツ及びその施設と連携する。
- 2 地域の工芸品の販売（市場開拓、市場戦略）を支援する仕組みを検討する。
- 3 ジオパークの施設で地域の工芸品を展示する。
- 4 萩焼をはじめとした伝統工芸品・地域の伝承や伝統文化のジオストーリーにおける位置づけやテーマとの関連性を示し、その技術継承や文化継承を支援する。

⑧ 地域振興のための行政等の関係機関と連携した取組み

- 1 協議会が民間企業や大学、地方自治体等との共同プロジェクトを企画し、事業化する。
- 2 ジオツーリズムにおいて環境に優しい散策路などの仕組みをつる。

- 3 ジオサイト等への公共交通機関を使ったアクセスを紹介する。
- 4 公共交通機関が使用できないジオサイト等については代替の交通手段を検討する。
- 5 萩ジオパークで統一されたデザインの道標を整備する。

⑨ JGN と連携した主体的な取組みを開始する

- 1 山口県内にある Mine 秋吉台ジオパークと緊密な連携を図り、共同イベントやジオツアー連携や、相互での研修会等を行う。
- 2 中四国近畿・九州等の近隣のジオパークと巡回パネル展や講演会・学習会、交流・情報交換会等を実施する。
- 3 JGN 加盟地域の全てのジオパークが関わることができるテーマでシンポジウムを開催する。
- 4 JGN 加盟地域の全てのジオパークが関わるすることができるテーマのワーキンググループを立ち上げ活動する。

5 活動の可視化

試行錯誤の成果をコンテンツとして提供する

① 萩ジオプランナーが活躍する場をつくる

- 1 萩ジオプランナーから人材を募り、ジオガイドを養成する。
- 2 地域の社会教育活動に「萩ジオプランナー」などが参画し、講演・解説等を行う。

② 学校におけるジオパーク利用ガイド・プログラムを作成する

- 1 授業に「ジオパーク」を取り入れる。
- 2 山口県内の子どもたちに学ぶ環境を用意する。
- 3 萩博物館と連携した教育プログラムをつくる。
- 4 火山実験や柱状節理のでき方など学校教育や体験ツアーのための「萩ジオパークらしい」教材を用意する。
- 5 ジオサイトだけでなく、自然（生態）・文化遺産を含めた活用を行うため、解説・案内、ガイダンス、教育プログラムを展開する。
- 6 ビデオ、スライドショー等の映像資料を作成し、あらゆる場面で視聴できる環境をつくる。
- 7 ジオパークビジターセンターの展示を定期的に更新し、最新情報を提供する。

③ ジオプランナー・ジオガイド主体の授業や研修会を行う

- 1 ジオパークのエリアを訪れた子どもたちが、個別に参加できるプログラムを制作・実施する。
- 2 小学生向けプログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)
- 3 中学生向けプログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)
- 4 高校・大学生向けプログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)
- 5 社会教育・生涯学習プログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)

④ ジオサイトの保全活動を開始する

- 1 監視・巡回(保全パトロール)を実施する。
- 2 ジオサイトの定期的なメンテナンスとモニタリングを実施する。

⑤ ジオツアーを商品化する

- 1 人数を限定した、深く学べるジオツアーを年数回実施する。
- 2 地質学や地形学に特に興味のあるグループのための専門的なツアーを検討・実施する。
- 3 年間を通じて定期的にツアーを計画・実施する。
- 4 幅広い参加者を対象とした、楽しく気軽に参加できるジオツアーを年数回提供する。
- 5 悪天候によりツアーが中止になった場合に利用できる代替案を用意する。
- 6 事前の予約不要といった、参加者向けの柔軟な予約システム(当日受付可能など)を検討・運用する。ジオツーリズムにおいて交通量を減少させるための規制等の対策をとる。
- 7 ジオガイドが低廉化しないよう定期的なガイド研修を実施する。
- 8 ジオツーリズムにおいて環境に優しい散策路などの仕組みをつくる。
- 9 天候に左右されないガイドツアープログラムを用意する。
- 10 地元企業と協力したツアーを提供する。
- 11 将来的にガイド付きの自転車(サイクル)ツアーを検討し、モニターツアーを実施する。
- 12 ジオパーク内で旅行業の資格を持つ企業・団体もしくは個人と協力関係を構築する。

- 13 ジオツーリズムを継続させ、定番化させる。

⑥ パンフレット・マップ、説明看板を作成する

- 1 適切な箇所に分かりやすい説明案内板を計画的に設置する。
- 2 ジオサイト、観光拠点などに読みやすい説明・案内板を掲示する。
- 3 萩ジオパーク活動を紹介するパンフレットやマップを適切な箇所に設置する。また、常に更新を行い、最新の情報を提供する。
- 4 ジオサイト地図をつくる。
- 5 萩ジオパークを説明するマップ・パンフレットを発行する。また、定期的に情報を更新する。
- 6 マップやパンフレットがいつでもどこでも入手できる環境を整える。特に、地域内各所の情報発信拠点で必ず入手することができる体制をつくる。
- 7 萩ジオパークを説明するガイドブックを発行する。
- 8 将来的に協議会が発行するマップ・パンフレット等の多言語化を目指す。
- 9 ジオサイト近隣で利用可能な駐車場を確保する。

⑦ ジオパーク的な食と体験の情報発信拠点を整備する

- 1 主要なジオサイトの近隣に地域情報拠点施設やそれに準ずる施設を計画的に設置する。設置箇所は、交通アクセスを考慮したものとし、公的施設や空き家、道の駅の一部スペースなどを有効活用した展開を図る。
- 2 ジオツアー時に集合場所となるランドマークポイントを設定するとともに、案内板などインフォメーション機能をもたせる。
- 3 情報発信拠点施設においては、ユニバーサルデザインを意識し、バリアフリー化や点字・音声ガイド対応等を可能な限り行う。
- 4 情報発信拠点施設において、年間を通じて展示やイベントを展開する。
- 5 協議会や地元企業・団体が開発した地元の商品等のブランドを設ける。
- 6 商品パッケージやサービス内容にジオパークのストーリーやテーマを明確に記す。

6 情報の拡散

活動情報を発信し拡散させる

① ジオパークの情報を発信する

- 1 協議会のウェブサイトを設置・運営する。より有効な情報発信のためサイトをリニューアルするとともに、常に最新の情報を提供する。また、フェイスブック等のSNSと連動してタイムリーな情報発信を行っていく。
- 2 観光協会や地方自治体などの幅広い情報を提供する他のウェブサイトへリンクする。
- 3 ウェブサイトで最新の活動やジオツアー、イベント情報を公開し、気軽にエントリーが可能となるようプラットフォームを整備し、運用する。
- 4 ウェブサイトでの多言語化を目指す。まずは、英語訳の環境を整え、次にフランス語、中国語（繁体・簡体）、ハングル語の環境を段階的に整備する。
- 5 CATVやコミュニティFM等を通じて、地域の地場産品や観光名所にジオパークという付加価値をつけて紹介する番組を提供する。
- 6 地元の新聞社等とタイアップして、萩ジオパークを紹介するコーナーの連載やイベント情報を掲載する。
- 7 協議会会員向け会報誌「萩ジオパーク推協だより」を毎月1回発行し、最新の活動の共有を図る。
- 8 萩ジオパークビジターセンターをより充実するとともに、来訪者の増加と理解増進に向けたインタープリテーションを展開する。

7 活動の自走化

活動が循環し拡大しながら自走するように指揮・調整する

① 組織・体制の充実

- 1 萩ジオパークの保全・保護や地域の持続的発展の促進などについてマネジメント可能な運営体制を確立する。
- 2 ジオパーク活動に必要な人材・予算、支援体制を確保する。
- 3 必要な数の常勤の専門員を維持・確保する。
- 4 専門員のサポーターを養成する。

- 5 常勤職員の中にガイド養成の担当者を置く。
- 6 地域連絡会議、学校教育連絡会議を定期的に開催する。
- 7 協議会と関係機関・関係団体で協議し、互いの協力関係を明確にする。
- 8 策定した基本計画・行動計画が陳腐化することの無いよう、定期的な見直しを実施する。
- 9 ジオパークとしてのマーケティング戦略をつくる。
- 10 ロゴマークを地域住民に愛着を持ってもらえるよう普及・啓発に努める。
- 11 ロゴマークの利用に関するルール、使用基準を設ける。
- 12 「ジオパーク」の名称利用に関して運営ルールをつくる。

② 萩ジオパークヴィジョンの実現に向けて

- 1 地域の人がジオパークを通じて経済的・精神的に豊かになる仕組みをつくる。
- 2 ジオパークを楽しみ、生きがいを見出している人を増やす。

行動計画（アクションプラン）

行動(実践)内容	第2次行動計画			見直し
	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
(1) 初期設定 ジオパークの基本情報を設定する				
① 守るべきジオサイトを設定する				
1 ジオサイトを研究成果に基づいて設定し、それを進化・発展させる		海域境界の再検討	→	
2 萩ジオパークにおける地球活動の記憶の理解に必要な自然サイト、文化サイトを設定する。	→			
3 ジオサイトの保全のためのルールを設け、告知する。	→			
4 有事の際に相談できる保全委員会を設ける。ジオサイトの選定、保全について、学術的な検討を行う。	→			
② ジオサイトカルテを作成する				
1 地質年代・岩石の種類・特徴をリスト化する。	→			
2 国際的に特徴的なジオサイト、国内で特徴的なジオサイトなどジオサイトの分類分けを行う。	→			
3 教育的に意義のあるジオサイトをリスト化し学校教育等に活用する。	→			
4 ジオサイトのデータベースをつくる。	→			
5 自然(生態)遺産や文化遺産をリスト化する。	→			
(2) テーマを設定する 全ての分野を貫く軸となるテーマを設定する。				
① キャッチコピーを設定する				
1 全ての分野をつらぬくキャッチコピーを設定し共有する。	検討	検討・共有	→	
(3) 理念の普及 理念やビジョンに共感してもらい活動者になってもらう				
① 萩ジオプランナーを養成する				
1 地域住民のジオパークへの興味を深め、活動への参画を目指し、年間を通じて「萩ジオプランナー養成講座」を開催する。	→			
② 学校教員向けジオパーク利用研修を行う				
1 地域内の教員向けの研修プログラムを実施する。	→			
2 山口県内の教職員を対象とした研修会の場を提供する。	→			
③ ジオサイトに関する住民説明会を開催する				
1 ジオサイトの基本情報を整理し、地域住民に正しく伝える。	→			
④ 萩ジオパークパートナー制度を設立する				
1 ジオパークの理念に賛同する事業者を募集して共に活動する。	→			
(4) 探求と創造 活動者が分野を超えて交わり試行錯誤を繰り返す				
① 調査・研究の促進と環境づくり				
1 研究者の研究目的のための各種申請書作成支援を行う。	→			
2 研究者の要望により現地案内できる環境を整える。	→			
3 各種論文が発表される環境づくりを行う。	→			
4 地域内の学術研究の成果をまとめたデータベースを作成する。また、その情報を公開し、資料収集がしやすい環境をつくる。	→			
5 定期的にアンケート調査等を行い、来訪者情報を把握する。また、調査結果を分析し、今後の活動等に反映させる。		アンケート・検討		アンケート・検討

行動(実践)内容	第2次行動計画			見直し
	R4	R5	R6	R7
	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)
② ジオサイト保全ルールを設定する				
1 各ジオサイトに応じた保全ルールを設定しこれを周知する。	→			
2 遺産の破壊防止や持ち去りの禁止等のルールを設ける。また、これを周知する。	→			
3 必要に応じて、保護や研究を目的に立ち入り規制をする地域を設定する。				
4 研究のための地質標本採取について許可区域を設けるなどルール化する。				
③ 萩ジオガイドを養成する				
1 萩ジオパークを来訪者へ楽しく分かりやすく伝えるためのガイドを育成するため「萩ジオガイド養成講座」を開催する。	→			
2 ジョガイドには、(1)ジオパークの理念、(2)地質学や地形学の知識、(3)大地と人と自然のつながりに関する知識、(4)リスクマネジメントの技術等を習得してもらう。	→			
3 ガイド養成において、ガイド中に自然災害が発生した際のガイドのとるべき対応を習得するための研修をとり入れる。	→			
④ モニターツアーを実施する				
1 ジオサイトをジオツーリズムに活用する。	→			
2 ジョツーリズムの中心となりうる特定の地域を創出する。	→			
3 ジョパークのジオストーリーやテーマを表現するジオツアーを提供する。	→			
4 ジョツアーにより地域経済が潤う仕組みを構築する。		再検討	仕組みづくり	→
5 ガイドが、過去にそのエリア内で起きた自然災害や、その発生要因をジオツアーの中で紹介できるようにする。	→			
6 将来的には数日に渡るパッケージツアーを検討し、モニターツアーを実施する。				
⑤ ガイド組織を立ち上げる				
1 ジョガイド養成とモニターツアーでジオツアーを実践したガイド達によるガイド組織を立ち上げる。	→			
⑥ 食のジオパーク的な整理を行う				
1 ジョパークを通じ地元の食材や商品などの販売促進につながる仕組みを検討する。		再検討	仕組みづくり	
2 ジョツーリズムにおいて地元の食材を使った料理を提供する飲食店等の情報を提供する。	→			
3 地元の農林水産物や郷土料理のためのジオパーク専用のブランド制度(統一したラベルや認証制度)を設ける。		検討	実証実験	実施
4 ジョツーリズムにおいて地域の道の駅や農産物直売所等と連携する。	→			
5 ジョパークの地形・地質を表現した商品開発を推進する。	→			
6 イベント等で地元の食材や商品を販売できる機会を提供する。	→			
⑦ 体験のジオパーク的な整理と開発を行う				
1 ジョツーリズムにおいて地域で体験・体感できるコンテンツ及びその施設と連携する。	→			
2 地域の工芸品の販売(市場開拓、市場戦略)を支援する仕組みを検討する。	→	再検討	仕組みづくり	→
3 ジョパークの施設で地域の工芸品を展示する。	→			
4 伝統工芸品・地域の伝承や伝統文化のジオストーリーにおける位置づけやテーマとの関連性を示し、その技術継承や文化継承を支援する。	→			
⑧ 地域振興のための行政等の関係機関と連携した取組み				
1 協議会が民間企業や大学、地方自治体等との共同プロジェクトを企画し、事業化する。	→	企画検討	事業化	→
2 ジョツーリズムにおいて環境に優しい散策路などの仕組みをつくる。		検討		

行動(実践)内容	第2次行動計画			見直し
	R4	R5	R6	R7
	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)
3 ジオサイト等への公共交通機関を使ったアクセスを紹介する。				→
4 公共交通機関が使用できないジオサイト等については代替の交通手段を検討する。				→
5 萩ジオパークで統一されたデザインの道標を整備する。		デザイン検討	実施方法模索	計画策定
⑨ JGNと連携した主体的な取組みを開始する				
1 山口県内にあるMine秋吉台ジオパークと緊密な連携を図り、共同イベントやジオツアー連携や、相互での研修会等を行う。				→
2 中四国近畿・九州等の近隣のジオパークと、巡回パネル展や講演会・学習会、交流・情報交換会等を実施する。				→
3 JGN加盟地域の全てのジオパークが関わることのできるテーマでシンポジウムを開催する。			検討	開催
4 JGN加盟地域の全てのジオパークがかかわることのできるテーマのワーキンググループを立ち上げ活動する。		立上げ検討 海城境界調査	発足	活動
(5)活動の可視化 試行錯誤の成果をコンテンツとして提供する				
① 萩ジオプランナーが活躍する場をつくる				
1 萩ジオプランナーから人材を募り、ジオガイドを養成する。				→
2 地域の社会教育活動に「萩ジオプランナー」などが参画し、解説等を行う。				→
② 学校におけるジオパーク利用ガイド・プログラムを作成する				
1 授業に「ジオパーク」を取り入れる。				→
2 山口県内の子どもたちに学ぶ環境を用意する。				→
3 萩博物館と連携した教育プログラムをつくる。				→
4 火山実験や柱状節理のでき方など学校教育や体験ツアーのための「萩のジオパークらしい」教材を用意する。				→
5 ジオサイトだけでなく、自然(生態)・文化遺産を含めた活用を行うため、解説・案内、ガイドンス、教育プログラムを展開する。				→
6 ビデオ、スライドショー等の映像資料を作成し、あらゆる場面で視聴できる環境をつくる。				→
7 ジオパークビジターセンターの展示を定期的に更新し、最新情報を提供する。				→
③ ジオプランナー・ジオガイド主体の授業や研修会を行う				
1 ジオパークのエリアを訪れた子どもたちが、個別に参加できるプログラムを制作・実施する。				→
2 小学生向けプログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)				→
3 中学生向けプログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)				→
4 高校・大学生向けプログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)				→
5 社会教育・生涯学習プログラムを制作・実施する。(エリア内、県内、県外ごと)				→
④ ジオサイトの保全活動を開始する				
1 監視・巡回(保全パトロール)を実施する。				→
2 ジオサイトの定期的なメンテナンスとモニタリングを実施する。				→
⑤ ジオツアーを商品化する				
1 人数を限定した、深く学べるジオツアーを年数回実施する。				→
2 地質学や地形学に特に興味のあるグループのための専門的なツアーを検討・実施する。				→
3 年間を通じて定期的にツアーを計画・実施する。				→

行動(実践)内容	第2次行動計画			見直し
	R4	R5	R6	R7
	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)
4 幅広い参加者を対象とした、楽しく気軽に参加できるジオツアーを年数回提供する。				
5 悪天候によりツアーが中止になった場合に利用できる代替案を用意する。				
6 事前の予約不要といった、参加者向けの柔軟な予約システム(当日受付可能など)を検討・運用する。ジオツーリズムにおいて交通量を減少させるための規制等の対策をとる。				
7 ジオガイドが低廉化しないよう定期的なガイド研修を実施する。				
8 ジオツーリズムにおいて環境に優しい散策路などの仕組みをつくる。		検討		
9 天候に左右されないガイドツアープログラムを用意する。				
10 地元企業と協力したツアーを提供する。		ツアー販売等検討		
11 将来的にガイド付きの自転車(サイクル)ツアーを検討し、モニターツアーを実施する。				
12 ジオパーク内で旅行業の資格を持つ企業・団体もしくは個人と協力関係を構築する。		ツアー販売等検討		
13 ジオツーリズムを継続させ、定番化させる。				
⑥ パンフレット・マップ、説明看板を作成する				
1 適切な箇所に分かりやすい説明案内板を計画的に設置する。		萩・明倫学舎の館内表示		
2 ジオサイト、観光拠点などに読みやすい説明・案内板を掲示する。		長門峡		
3 萩ジオパーク活動を紹介するパンフレットやマップを適切な箇所に設置する。また、常に更新を行い、最新の情報を提供する。				
4 ジオサイト地図をつくる。				
5 萩ジオパークを説明するマップ・パンフレットを発行する。また、定期的に情報を更新する。				
6 マップやパンフレットがいつでもどこでも入手する環境を整える。特に、地域内各所の情報発信拠点で入手することができる体制をつくる。				
7 萩ジオパークを説明するガイドブックを発行する。				
8 将来的に協議会が発行するマップ・パンフレット等の多言語化を目指す。			英語	中・韓・仏
9 ジオサイト近隣で利用可能な駐車場を確保する。				
⑦ ジオパーク的な食と体験の情報発信拠点を整備する				
1 主要なジオサイトの近隣に地域情報拠点施設等を計画的に設置する。設置箇所は、交通アクセスを考慮したものとし、公的施設や空き家、道の駅のスペースなどを有効活用した展開を図る。	笠山山頂展望台の運営検討	笠山山頂展望台の運営		
2 ジオツアー時に集合場所となるランドマークポイントを設定するとともに、案内板などインフォメーション機能をもたせる。				
3 情報発信拠点施設においては、ユニバーサルデザインを意識し、バリアフリー化や点字・音声ガイド対応等を可能な限り行う。				
4 情報発信拠点施設において、年間を通じて展示やイベントを展開する。	つわぶきの館の展示検討	つわぶきの館の展示整備 笠山山頂展望台の運営		
5 協議会や地元企業・団体が開発した地元の商品等のブランドを設ける。		検討	実証実験	実施
6 商品パッケージやサービス内容にジオパークのストーリーやテーマを明確に記す。		実施		
(6)情報の拡散 活動情報を発信し拡散させる				
① ジオパークの情報を発信する				
1 協議会のウェブサイトを設置・運営する。より有効な情報発信のためのサイトをリニューアルし、常に最新の情報を提供する。また、SNS等と連動してタイムリーな情報発信を行っていく。		手法・方策の検討		
2 観光協会や地方自治体などの幅広い情報を提供する他のウェブサイトへリンクする。				
3 ウェブサイトで最新の活動やジオツアー、イベント情報を公開し、気軽にエントリーが可能となるようプラットフォームを整備し、運用する。		手法・方策の検討		
4 ウェブサイトでの多言語化を目指す。まずは、英語訳の環境を整え、次にフランス語、中国語、ハンゲル語等の環境を段階的に整備する。				仏・中・韓

行動(実践)内容	第2次行動計画			見直し
	R4	R5	R6	R7
	(2022)	(2023)	(2024)	(2025)
5 CATVやコミュニティFM等を通じて、地域の地場産品や観光名所にジオパークという付加価値をつけて紹介する番組を提供する。	依頼	番組提供	→	
6 地元の新聞社等とタイアップして、萩ジオパークを紹介するコーナーの連載やイベント情報を掲載する。	→	手法・方策の検討	→	
7 協議会会員向け会報誌「萩ジオパーク推協だより」を毎月1回発行し、最新の活動の共有を図る。	→		→	
8 萩ジオパークビジターセンターをより充実するとともに、来訪者の増加と理解増進に向けたインタープリテーションを展開する。	→	手法・方策の検討	→	
(7)活動の自走化 活動が循環し拡大しながら自走するように指揮・調整する				
① 組織・体制の充実				
1 萩ジオパークの保全・保護や地域の持続的発展の促進などについてマネジメント可能な運営体制を確立する。	→		→	
2 ジオパーク活動に必要な人材・予算、支援体制を確保する。	→		→	
3 必要な数の常勤の専門員を維持・確保する。	→		→	
4 専門員のサポーターを養成する。	→		→	
5 常勤職員の中にガイド養成の担当者を置く。	→		→	
6 地域連絡会議、学校教育連絡会議を定期的に開催する。	→		→	
7 協議会と関係機関・関係団体で協議し、互いの協力関係を明確にする。	→		→	
8 策定した基本計画・行動計画が陳腐化することの無いよう、定期的な見直しを実施する。	→		→	
9 ジオパークとしてのマーケティング戦略をつくる。	調査・検討	→	実施	→
10 ロゴマークを地域住民に愛着を持ってもらえるよう普及・啓発に努める。	→		→	
11 ロゴマークの利用に関するルール、使用基準を設ける。	→		→	
12 「ジオパーク」の名称利用に関して運営ルールをつくる。	→		→	
② 萩ジオパークビジョンの実現に向けて				
1 地域の人がジオパークを通じて経済的・精神的に豊かになる仕組みをつくる。	→		→	
2 ジオパークを楽しみ、生きがいを見出している人を増やす。	→		→	